

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0170503445-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藻岩山山麓の静かな住宅街の中にあり、四季の移り変わりや、冬には夜景が楽しめます。「住み慣れた地域での安心した暮らし」を含む3項目の理念をモットーに認知症をケアするのではなく、入居者様一人一人の思いや悩みと向き合い、日々の支援の在り方を検証し、介護理念に対する認識の統一を図っております。日常の中でも、体力、能力の維持に努め、毎日のラジオ体操や歌、ぬり絵等、レクリエーションを通じて「できる事」と「したい事」を見極めながら支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームポテトタウン北の沢」は札幌市郊外の藻岩山近くに位置し、バス停から数分の住宅地に建っている2階建ての1ユニットである。建物は民家改造型の家庭的な造りで、2階への階段昇降などは運動にもなっている。当事業所は開設後17年目に入り、利用者は地域住民として買い物や外食を楽しみ、外出行事に出かけて地域に溶け込んで暮らしている。管理者と職員は町内会や近所づきあいを大切にして関わり、長年の信頼関係から近隣住民が利用者を見守る体制になっている。災害時にも近隣の企業や住宅から一時避難場所として提供を受けている。令和2年から新型コロナウイルス感染防止のため、外出や外部者との交流が制限されている。運営推進会議と身体拘束適正化委員会は内部会議に変更して事業所の取り組み内容、また身体拘束では行動を抑制しないケアを報告し、議事録を送る際に別紙で家族の意向を収集している。毎月の生活記録と主治医指導の健康管理、介護計画見直し時のモニタリング表や研修の内容を家族に送り、情報を共有して信頼関係を築いている。感染症流行の状況を見て家族の面会もある。外食などが難しい状況では毎月数回、出前を取り寄せ食事が楽しめるように工夫している。職員は見守りの中で自立面が維持できるように支え、利用者の思いに沿って対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様や家族の思いを尊重し、その人らしい暮らしを支えていけるように理念を設け、職員採用時には、理念の説明を行っている。又、日頃から理念の意識付けにリビングや休憩室にも掲示している。	地域密着型サービスの文言が入った事業所理念を要所に掲示し、町内会や近隣住民と関係を築いている。日々のケアや介護計画を見直す際に理念に沿って、その人らしい暮らしができていないかを確認し職員は意識して対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、子供110番や定期的に訪問される役員もあり、又、近所の住民からは家庭菜園の野菜の差し入れ等もありますが、現在はコロナ禍の影響から関わりを控えている。	新型コロナウイルスの流行から住民と直接的な交流は難しいが、流行の状況を見てクリスマス会に民生委員が来訪している。散歩中に近隣から花のさし入れを受けたり、職員が町内会のしめ縄作りに参加するなど住民との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理職や職員は、認知症サポーターの研修に参加する等、認知症の状態に対する悩み事を受け入れる体制がある。現在はコロナ禍の中で直接的な関わりは控えているが、電話での相談は分かりやすく支援方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の現状や行事、災害対策等、研修内容等を報告し、そこで得られた意見を含め、議事録として御家族には、資料等を郵送している。	感染症流行の拡大時には内部会議とし、取り組み内容の報告として議事録と意見を伺う別紙を同封し要望などを収集している。今後の会議開催時には事前にテーマに沿って意見を聞き取り、会議に家族の意向を反映したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業主や管理者が連絡を行っており、相談や情報交換を行い、関係を築く努力をしている。現在、コロナ禍でもあり、足を運ぶ事も少なく、メールでのやり取りとなっている。	事業所の報告はメールや郵送で行っている。市の担当者から、新型コロナウイルス感染症防止のためPCR検査、抗原検査キット、マスクなどの用品が届けられるので対応している。生活保護担当者とは必要に応じて密に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加しており、全職員が身体拘束に対する知識と認識を持っている。日中は、玄関等に施錠せず見守り、本人の自由な生活を当たり前と考え、人として当然の権利を有する事が前提とし、日々身体拘束をしないケアを実践しており、身体拘束適正化委員会を設置し日々意識して取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議後に行い、研修では身体拘束・虐待に関するチェック表を用いて個別に振り返り、利用者の行動を抑制しないケアに取り組んでいる。具体的な禁止行為も確認している。委員会の議事録、研修内容は全職員の確認、また家族にも送付し情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加しており、その中で学び得た事を報告し、情報を共有し虐待のないケアに努めている。コロナ禍で外部研修も中止となっているため、内部会議の機会を増やし普段のケアの中で何気ない対応が虐待になっていないか意識するよう努めている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受けているが、今日まで依頼や相談はない。日常生活自立支援事業や成年後見制度は内容が複雑で十分に理解する事は難しいが、高齢化が進む中で今後、必要となるケースを踏まえ、研修が出来るよう心がける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より事業所の概要を説明し入居の際も丁寧に説明し、理解、納得された上でサインをいただいている。年数が経過すると契約内容を失念している事もあるため状況に応じて再度、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は苦情箱を設置していたが、利用される事が一度もなかったため、日常のお手紙や、議事録等送付する際に返送用の封筒と便箋を同封する等、家族の意見や役員の意見等、運営に反映させている。	介護支援経過記録に生活の様子を詳細に記載し、毎月家族に送る際に別紙で意向を収集してケアや介護計画に反映させている。健康状態に変化のある時は家族に来訪を勧めたり、感染症流行の状況を見て、短時間の面会も行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望等、いつでも反映出来るように代表者を交え、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。又、職員が受講したい研修や資格取得のバックアップを支援し、希望休日や出勤日を調整している。	毎月の職員会議のほか、モニタリングや申し送り時に、意見を交換している。感染症対策では、行政からの情報を収集し徹底して防止している。代表でもある管理者は現場で職員の意向や思いを常に把握し、働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から事業主は、職員の意見等、気軽に会話が出来環境になっており、管理者は事業主へ職員の状況を説明し、一人一人が向上心を持って働けるよう努力し疲労感が溜まらないよう希望休みや有給休暇の使用も促し配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や外部研修に参加している。その研修結果を職員会議や内部研修で、外部研修で学んだ職員がリーダーを務め、スキルアップに活用している。現在は、コロナ禍の影響で外部研修は控え、内部研修になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での研修や同業者との懇親会や交流会に参加し活動を通じてサービスの向上に努めている。現在、コロナ禍で中止となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の利用者、家族との面談の中で不安や要望の聞き取りを行い、全職員で情報を共有し、課題分析を行う事でより良いコミュニケーションがとれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される御家族様の立場に立ち、入居に至る経緯や家族としての悩みや不安、又、利用にあたっての金銭的な悩みや不安、要望等、時間をかけ傾聴し質問事項に合わせ受容的態度に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族様との面談の際に、現状や要望を傾聴し、必要な支援、優先順位などを見極め対応している。又、他の社会資源の利用も含め検討し紹介や助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという気持ちで支援している。職員も入居者様から日々学ぶ事もあり、共に支え合う時間、関係作り、常に側に誰かが寄り添い、暮らしを共にする者同志の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月の一度の支援経過や電話連絡、面会時などに日常生活や変化を細かく伝え、情報を共有する事や協力を得ながら良い関係が築かれている。現在、コロナ禍で直接的な面会は時間を制限して行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夜間以外の面会時間に制限を設けず、何時でも馴染みの方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。又、帰られる時は、再度足を運んでいただけるよう働きかけている。現在、コロナ禍で面会が出来ないため電話等で連絡、関係が途切れないよう支援している。	感染症流行のため、友人とは電話や手紙で交流を継続している。感染症の流行状況を見て家族と自宅に行く利用者や、趣味で読書を楽しむ利用者もいる。普段の会話で利用者の好みを聞き取り、事業所でのビンゴゲームの際にプレゼントにすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見極め、一方的な介入にならないように様々な側面から観察する事により入居者様同志の関係性や関わり方等を理解し、一人一人が孤立しないような支援に努めている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には事業所側で入居者様の状態に適した次の生活の場所を探し、その後の経過に応じて相談にのる等のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や想いを日頃から聴き入れ、個々の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合にも常に入居者様の立場で考え、表情や仕草から思いを汲み取る姿勢で関わり職員会議等で話し合い検討している。	ほぼ会話が可能で、ケアや計画の見直し時に意向を聞き反映させている。入居時にセンター方式で本人の趣味、嗜好なども収集しているが、変化などの加筆が少ないように見受けられる。	センター方式の(B-3)シートにある、趣味、嗜好、暮らしの習慣について変化や追記などを具体的に記載し、計画の見直し時に共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する段階で、本人、家族、関係機関より情報収集で馴染みの暮らし方や生活歴を把握し、その人らしい生活を継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の一日の過ごし方や言動、行動等、個々の生活リズムを把握し、現状に合わせた支援が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やモニタリング、日常的な職員間でのミニカンファレンスを行い、現状での課題分析や改善に向けた支援について検討を行い、適切な介護計画の作成につなげ変化が見られた時はその都度、検討している。	計画作成担当者を中心にモニタリング会議で評価を行い、それらをもとに3か月ごとに介護計画を作成し本人にも説明している。計画書に評価内容を記載して家族に送付し同意を得ている。支援内容の変化などは介護支援経過に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容に沿って本人の状態を記録している。又、いつもと違う変化、気になる事等が見られた時は職員全体で情報を共有しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診、緊急受診の対応等、家族の要望に応じている。又、買い物や外出同行等、入居者第一で考え支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会をはじめ、民生委員の定期的な訪問、又、防災に関するアドバイスや施設の行事等、ボランティアの方と連携を図り、入居者が生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの医療機関を継続して行っているが、状態によって医療機関が変わる事がある。現在、月2回の往診や定期検査、予防接種等を行っている。又、定期検診の際には、病院側の送迎の支援を受けている。	協力医療機関の内科医による訪問診療を受けている。内科以外の受診は、主に職員が同行している。往診・受診内容は介護支援経過に個別ごとに記録し、主治医からの聞き取り内容を見たとし、健康情報を毎月家族に送付している。	

ポテタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関が24時間対応のため、入居者一人一人が適切な受診や訪問看護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、医療相談室と定期的に連絡を取り、入居者の状態の確認や変化を把握し、退院後の支援体制を御家族と一緒に整え、病院関係者との関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については入居時から話し合っており、施設で生活する中でどの必要な段階にきた時でも本人にとって最良の環境が選択出来るよう支援すると共に重度化が進む中で意向に変化はないか確認している。今まで看取り支援はない。	利用開始時に重度化対応に関する内容を文章で説明し、看取りは行っていないことも伝えている。状態の変化時には関係者で方針を確認し、重度化しても食事が摂れるように工夫し対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の講習を修了している。又、日頃から起こりうる事故を想定し、定期的に話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施しており、地震時の対応についても行っている。訓練は、夜間も含めた様々なケースを想定し入居者全員が参加している。現在はコロナ禍により地域住民の参加がなく、あくまでも自主での訓練を主に行っているが、回覧板等を届けたりした時は災害時の協力をお願いしている。	感染症防止から昼夜の火災、地震を想定し自主訓練としている。昼夜間の一時的な避難場所は近隣企業や住宅の提供を受けており、避難先を家族にも伝えている。今後は地震によるケア別の対応について検討し、感染症の収束後には職員の救急救命訓練の受講を予定している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係になっても人格の尊重やプライバシーの確保については常に意識し個人記録は周囲から見えない様に保管している。言葉かけにも失礼のないよう対応している。	職員は新人研修や内部研修で接遇を学び、定期的にチェック表で自己対応を再確認している。不適切な声かけがあれば職員同士でも注意し合い、利用者に関する情報交換は部屋番号で行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の伝えたい事や思いを日常生活の中で一人一人の能力や性格に合わせたコミュニケーションの取り方を工夫し自己決定の支援をしている。又、表出が困難な方でも一人一人の能力に合わせた自己決定を出来るよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりを優先するのではなく一人一人のペースや体調、気分などを尊重している。共同生活上ある程度の生活の流れは決められているが、利用者本位のケアの重要性を考え、入居者中心の生活支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月の一度、訪問美容で本人の好みを尊重し、カットしていただいたり、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。又、自分で身支度が出来ない方には、気温や季節に合わせ、一緒に選択出来るよう支援している。	

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、新鮮な食材の中で、入居者に合わせ嫌いな食べ物があれば、一人一人に合わせメニューを変更し提供している。又、重度化に伴い、一緒に準備する事は出来なくなっているが、おやつや盛り付けやテーブル拭き等は入居者と一緒に行っている。	食材会社の献立を基本に、年間行事に合わせて季節料理を提供している。毎月食事レクを開催して寿司や二段弁当などの出前を楽しんでいる。誕生日当日には、本人の好きな赤飯やちらし寿司でお祝いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一人一人の摂取量を毎日記録し常に把握している。栄養状態は往診時に主治医に伝え、水分摂取量も1400ccを目安に提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、口腔ケアを行っている。歯ブラシも月に1度交換し、就寝時は義歯を預り洗浄剤で洗浄している。又、口腔内の異状や本人の訴えがあった時は専門医を受診対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄感覚を最優先し極力、失敗につながらないように声かけを行っており、失敗が多くても安易におむつを使うのではなく出来る限り、トイレで排泄出来るよう支援している。自尊心にも十分配慮しながら支援している。	全員の排泄を記録して声かけしたり、仕草や本人の訴えに応じてトイレ誘導を行っている。家族と相談しながら、時間帯や排泄量に応じてパッドの大きさを変更している。現在は殆どの利用者がトイレで排泄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を細かく把握し、個別のアセスメントシートに記入している。又、食事、水分摂取量の管理を行い、薬だけに頼らず、運動や腹部マッサージを行う等、自然排泄につなげ困難な時に主治医に相談し対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週4日間実施しているが、時間の希望は聞かれず、日替わりで順番を決め入浴していただいている。入浴剤も季節に合わせて楽しんでいただいている。入浴中はボディケアを行いながら会話出来る雰囲気作りにも配慮している。	平日4日間の午後を中心に一人週2回の入浴を支援し、全員が湯船に浸かっている。本人の希望があれば、いつでもシャワー浴や入浴などに対応している。クリスマス会で全員に入浴セットをプレゼントしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、睡眠状況、運動量、精神状況などに応じて適度な休息を取り安眠につなげている。就寝時は、一人一人が好きな事をして過ごし、気持ち良く眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容は全職員が把握しており、個別ファイルに処方箋を添付し随時確認出来るようになっている。服薬時は複数の職員で確認の上、対応し誤薬防止に努めている。日頃から症状の変化や副作用と思われた時は主治医に伝える。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で自然に役員分担されており、積極的にお手伝いをされている。又、気晴らしが出来よう、ドライブに出掛けたり、外食を楽しんだりしている。現在、コロナ禍のため外食、買い物は控えている。			

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々体調に合わせ、散歩や外気浴など希望に添って支援している。御家族との外出も多く、施設でも外食や買い物、月の行事以外でも天気の良い日はドライブを楽しんだり、状態に合わせて支援している。現在は、コロナ禍の影響で御家族の協力は受け入れていない。	普段は事業所周辺を散歩したり、近隣の花畑を見に出かけている。玄関先のベンチでお茶を飲みながら外気浴をしたり、ラジオ体操をすることもある。感染症収束後は、以前のようなドライブや季節の外出を積極的に楽しみたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が可能な方には、希望により御家族と相談の上、所持していただくが、現在、所持している方はおらず、施設で管理しており、買い物等は職員が行い、お小遣い帳にレシートを貼付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に合わせて携帯電話を所持されて、いつでも自由に話をする事が出来る。手紙を出す時の支援も行い、郵送されて来たものは、開封せず直接本人に渡す等、プライバシーを尊重している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、日差しの強い時はレースのカーテンをしたり夜間は窓に映る影や夜影で混乱を招かないよう、夕暮れからカーテンを張る等の工夫をしている。職員は、常に不快な音を発しないよう注意を払っており、一人一人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	大きな窓に面した居間と食堂は明るく家庭的な雰囲気、ソファなど好きな場所でゆっくり過ごすことができる。壁には季節の装飾や利用者の塗り絵、折り紙作品が飾られている。階段の両側に手すりを設置して利用者が安全に昇降できるように配慮している。洗面所やトイレも多くあり生活しやすい環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同志が好きな場所で会話を楽しんだり歌を唄ったり一人で過ごす空間があったり、常に職員の側で過ごされる等、その時、好きな場所を選択出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物などを持参していただいている。本人が、置き場所を決定し思い出の物を飾る等、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室に、タンスなどの家具類や仏壇などを持ち込んで使いやすく配置している。家族の写真や誕生日のメッセージカードを飾り、その人らしい落ち着いた室内になっている。好きな本や週刊誌など見ながらゆっくり寛いでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の残存能力や空間認識能力、動作、行動の特徴、生活リズム等、本人の能力に合わせて安全、かつ個々の自立した生活支援を支えられるよう日々工夫し支援に努めています。		

目標達成計画

事業所名 ポテトタウン北の沢

作成日：令和 4年 1月 22日

市町村受理日：令和 4年 1月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ほぼ会話が可能でケアや計画の見直し時に意向を聞き反映させている。入居時にセンター方式で本人の趣味、嗜好なども収集しているが、変化などの加筆が少ないように見受けられる。	センター方式の(B-3)シートを用意し、ケアプランの短期目標、3ヶ月に一度の見直しや、モニタリングや評価月に合わせ記入し、全職員で共有する。	すでに取り組んでいる。	
2	35	感染性防止から昼夜の火災、地震を想定し、自主訓練としている。昼夜間の一時的な避難場所は近隣企業や住宅の提供を受けており避難先を家族にも伝えている。今後は、地震によるケア別の対応について検討し、感染症の収束後には職員の救急救命訓練の受講を予定している。	地震等の災害時を想定し、利用者ごとにケア別の対応を話し合い、マニュアルを作成する。又、必要に応じて、見直しをする(利用者の状態に合わせた対応)感染症の収束後には、救急救命の訓練を受講を実施する。	利用者ごとの対応マニュアルを作成し、防災対策マニュアルや非常事態避難マニュアルと一緒にファイルし、いつでも見る事が出来るようにしている。救急救命の講習は全員が受けているが、年数が経過しているため、感染症が収束後、順次再受講する。	
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。